

世界の靴物語 ②

文・画 神奈川県企業博物館連絡会特別会員 福原一郎

アメリカ *cowboy boots* カウボーイ・ブーツ

カウボーイ・ブーツは19世紀の後半、アメリカ西部開拓時代から牧場で働くカウボーイたちが履いた乗馬用の半長靴である。

彼等の仕事と生活の中から生まれた、足の保護と乗馬に必要な履物で、ウエスタン・ブーツ (western boots) ともいわれている。足のふくらはぎの上くらいの長さで、上部のはき口は側面からみて半円形で、前後はV型に切り込まれ着脱を容易にしている。

側面には植物の葉や蔓、花、鷺の翼などの図柄のステッチや、浮き彫りで装飾をほどこしたものの、また、アリゲーター、へびなど、爬虫類の革をアクセントに用いたものもある。

爪先は馬具のあぶみ鐙に靴先を踏み掛けやすいように細くとがったスクエア・トゥや、ポイントド・トゥになっている。

底付けはウェルトを用いた複縫式で、手縫いのものと、グッドイヤー式の機械縫いのものがある。

ヒールは後部が前方に傾斜した特有のもので、乗馬のときには拍車を取付けることが出来る。

カウボーイ・ブーツを履くときは、履き口の両側面についたプルストラップに専用のフックを掛けて両手で引いて足を入れ、脱ぐときはブーツ・ジャックという道具にかかとはさみ足を抜く。

近年、カウボーイ・ブーツなどウエスタン調のファッションが盛んになり、女性用

やオーダーメイドもつくられ、街の中で履かれている。

オランダ *klompen* クロンペン

木をくりぬいて作られる履物は、中世後半からヨーロッパの各地で用いられてきた。オランダの木靴はクロンペンと云われて湿地帯や港などでも履かれるため、丈夫で防水の効果もあり実用的で気軽に履けるものである。

職人の手作りによるものと、機械で量産されるものがある。素材としては、摩擦に強く細工のしやすい柳の木やポプラの木材が用いられる。

爪先がそり上り足の形にくりぬいて、甲には模様彫刻や風景の絵付けがほどこされて民族衣装にも履かれ、教会用や結婚式用のものもつくられている。

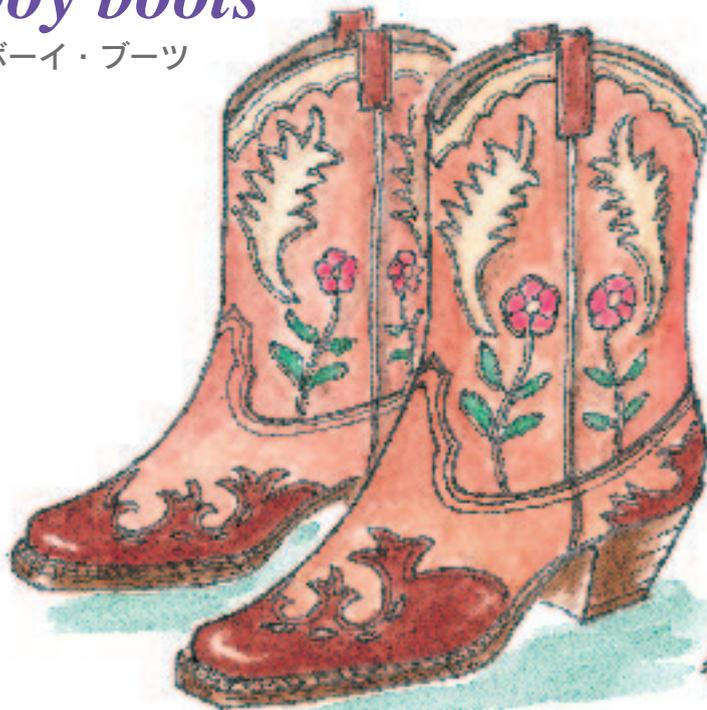
サボ (sabot) という名は、19世紀末、フランスで木靴を履いた人達が権力者に対してサボタージュで抵抗したことよるといわれている。

クロンペンは、観光の土産用に装飾されたものがつくられ、ルーム・アクセサリーなどインテリアにも用いられる。

また甲に革のストラップを付けたものもあり、ジーンズに履かれてファッションを楽しむことも出来る。

cowboy boots

カウボーイ・ブーツ



アメリカ

klompen

クロンペン



オランダ